



あめ 雨にシュクラン

こまつあやこ作 講談社

入学して三か月。影山高校を中退した。書道部の鶴先輩に憧れて、山をよじ登る思いで入った高校なのに。

精神状態がマズくなった父が会社を辞め、父の地元引っ越した。通学に往復五時間かかるから、通うことを諦めた。転校もしなかった。もう私は高校生じゃない。

ある日、妹の同級生が撮った

写真に添えられた、とある美しい文字に魅せられた。文字なのに、何だかメロディーを奏でているよう。

アラビア書道というアートをきっかけに新しい道へと進んでいく。

